

令和6年度学校自己評価システムシート（県立鶴ヶ島清風高等学校）

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
--------	---------------

重点目標	1 「自ら考える力」の育成 2 「健全な職業観・勤労観」の育成 3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月23日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	■現状 ・教務部及び学力向上推進委員会が主導し、教員相互の授業公開週間の設定や学力向上に資する教員研修の実施などの取組が展開されている。 ・指導者用端末を活用した授業実践や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進みつつある。 ■課題 ・日々の実践の中でデジタル技術の良さを生かしつつ、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実と教員の働き方の効率化の両立	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と教員の働き方の効率化の両立	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、各教科等の特質に応じてICTを活用した新たな教材や学習活動等を学習指導に取り入れる。 ②「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業改善や教科等横断的な学習を進めるとともに他者と協働しチームで問題を解決する取組を行う。 ③データサイエンスの基礎的な手法を用いた教科等横断的な学習や探究活動を行う。 ④授業改善や校務効率化を図るため学校におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)を総合的かつ計画的に行う。	①指導者用端末の利用実績が前年度を上回り、学習指導にICTを活用した新たな教材や学習活動等が取り入れられたか。 ②③教科等横断的な視点での学習活動とデータサイエンスの手法を用いた探究活動が実施できたか。 ①②③④「学校評価アンケート」の授業理解度及び学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④前年度の紙使用量の半減を達成するなど1人1台端末環境下でのICTの効果的な利活用により授業改善や校務効率化が進んだか。	■ICTの活用も含めた授業の更なる工夫・改善が必要 ①②学力向上推進委員会による教員相互の授業公開週間の年間3回の設定、ClassiNOTEを活用した授業研究等を実施した。 ③「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合は72.9% (昨年度73.6%)であった。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は92.1%(昨年度94.0%)であった。 ④令和6年度までの3か年計画で整備される指導者用端末の割り当て数が教員数に達し、校務や授業における活用実績が向上した。ClassiNOTEを活用した教員は30名を超えた。 ④夏季休業期間から休日・夜間での留守番電話を導入した。	B
2	■現状 ・体系的・系統的な本校独自の「キャリア教育プログラム」を実施し、コミュニケーション能力や社会性の育成を含めたキャリア教育を展開している。 ・学校生活のルール、マナーやモラルを遵守する指導を行うとともに、授業や学校行事等において生徒が主体的に活躍する場の創出に努めている。 ■課題 ・社会人・職業人として自立できるよう産業界等と連携したキャリア教育の実施や地域企業等と連携した実践的な職業教育を充実させる必要がある。 ・「こども基本法」(R5.4.1施行)の理念を踏まえ、一人一人の状況に応じた教育を更に推進する必要がある。 ・公共の精神に基づき個人と社会との関係を適切に理解するとともに、主体的に社会的課題の解決に向けた行動が取れるようにする必要がある。	発達支持的生徒指導と家庭や地域・企業等と連携したキャリア教育の更なる充実	①「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動を中心に、体系的・系統的なキャリアガイダンスを実施するとともに、家庭や地域・企業等と連携した職場体験やインターンシップを実施する。 ②発達支持的生徒指導を展開するとともに、「ルールを守ることが自分や他人を大切にすることにつながる」ということを理解させて思いやりの心と規範意識を培う指導を全教職員の共通理解のもと実践する。 ④教育相談活動や特別な教育的支援などの教育的ニーズの多様化に対応するための教職員の専門性の更なる向上と校内体制を整備する。	①②「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動や体験学習をベースに置く本校独自の「キャリア教育プログラム」が実施できたか。 ①②「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④3年次生徒の第1志望進路の実現率が9割程度になったか。 ②③「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割以上になったか。 ③④外部関係機関、SCやSSWとの連携や面談等によって生徒の個別状況や早期に、かつ的確に把握し、教育的ニーズの多様化に対応できたか。	■地域に貢献するために必要な他者との関わり方の理解・醸成が更に必要 ①「鶴ヶ島清風アカデミア」における地域課題の探究活動やインターンシップ、各種ガイダンスなど地域企業や機関等と連携した取組が充実した。 ①③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は66.0% (昨年度66.6%)であった。 ①②③④3年次生徒の第1希望進路の実現率(12月未現在)は94.3% (昨年度94.5%)であった。 ③④外部関係機関、SCやSSWとの連携や面談等によって生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、教育的ニーズの多様化に対応した。 ③④「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は88.5% (昨年度89.2%)で、学校生活に関する調査項目の肯定回答割合は85.8% (昨年度84.7%)であった。	B
3	■現状 ・県立高校の再編整備によって開校以来、鶴ヶ島市内唯一の県立高校として地域に根差し、地域から信頼される学校づくりを行っている。 ・学校・家庭・地域が相互に理解を深めて連携・協働しながら教育活動の多様化・活性化を図るとともに、学校内外の教育環境の改善や充実を進めている。 ■課題 ・学校・家庭・地域との連携・協働した教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化など家庭を取り巻く環境が変化する中、学校・家庭・地域の協力関係をより強固なものにする必要がある。 ・少子高齢化や人口減少、グローバル化やDXの進展などの社会状況の変化に加え、県内公立中学校卒業生数の減少傾向を踏まえた学校広報活動の取組を模索する必要がある。	学校・家庭・地域の相互理解の深化と地域での学びを深める学習環境づくり	①「協働教育ネットワーク会議」での意見・提言等を踏まえ、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となるような取組と併せて中学生や地域住民をはじめとする県民の本校の魅力の認知度を高める取組を効果的に実践する。 ②学校の働き方改革を推進するために学校・家庭・地域のそれぞれが適切な役割分担を果たし、教育に関するバランスを考慮しながら相互に連携した教育活動を展開する。 ③家庭を取り巻く環境の変化に対応できるように教職員の資質・能力を向上させるとともに、PTA、関係機関や企業等と連携した家庭教育支援体制を構築する。	①学校Webサイトの閲覧数が平均3,000件/日を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・Classメール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①学校説明会の生徒ボランティアの人数が前年度比1.1倍以上に増加したか。 ①②③「協働教育ネットワーク会議」やPTA活動等、学校・家庭・地域が繋がる仕組みが円滑に機能し、PTA、関係機関や企業等と連携した授業や学校行事等における取組の実施件数が昨年度を上回ったか。	■学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動の充実が概ね実現 ①学校Webサイトの1日平均閲覧数(12月末現在)は約4,600件(昨年度約4,000件)で3,000件/日を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は保護者94.0% (昨年度95.8%)であった。 ①学校説明会の生徒ボランティアの人数が前年度比1倍を下回った。 ④学校説明会に参加した中学生及びその保護者の満足度(12月実施分まで)は94.6%であった。 ①②③市や地域の事業(脚折雨乞行事への和太鼓部の参加、鶴フェスの広報協力、つるがしま物語の読み聞かせ等)、海外経験のある講師による講演、約80の事業所におけるインターンシップ、市民センターでのボランティア活動、近隣保育施設との実習授業や大学等の授業聴講等、地域や外部関係諸機関等と連携した取組の実施件数は昨年度以上となった。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 7 年 1 月 3 0 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・授業において、ICT機器が効果的に利活用されており良い。 ・「考える力」があっても、「自ら」の考え方はそれぞれ異なる。「協働的な学び」でたくさん「すり合わせ」しつつ、それぞれの「考え」を否定する事がない様指導してほしい。 ・DXの活用により、逆に「やった気になる」「できた気になる」恐れがある。教員の力量と生徒の意欲が前提なので不断にご留意いただきたい。 ・主要3教科では習熟度別で行ってくれるので、自分の実力にあったスピードで教えてもらえることができるのも良い。	
■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・夢を持ちづらい時代と言われ職業観や勤労観も変わりつつある中で自分の生き方を考え、職業を考える活動はとても貴重で有意義である。 ・SNSでのやりとりが多いが、社会に出て、必要になる言葉は感謝や謝罪であり、自分の口で相手に伝えられるかが大切である。人とのコミュニケーションを取ることの大事さを指導してほしい。 ・1年生の段階から職業別、分野別の進路ガイダンスを実施するなど、職業観や勤労観の育成に力を入れていることで、希望進路の実現率も高い数値となっている。 ・就職、進学共に手厚くサポートしてくれるので充実していると思います。	
■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・達成度が上がっているのが具体的に見て取れ、前向きに評価する。 ・8年ぶりの脚折雨乞行事での「和太鼓演奏」は、学校のPRにもなり会場も盛り上がって良かった。 ・地域との交流やボランティア活動は、将来必ずプラスになるので、今後も地域の行事や地元企業と密に連携をとりながら、生徒のためにご尽力をいただきたい。 ・就職でも地域の方と協力してインターンシップなども行ってくれるので生徒側はとてもありがたい。 ・PTAを含む保護者が学校行事や地域との交流に参加出来るよう、情報提供をお願いしたい。 ・三者面談で、家庭の様子を学校へ伝えてもらえる様、もう少し時間を取った方が良い。	